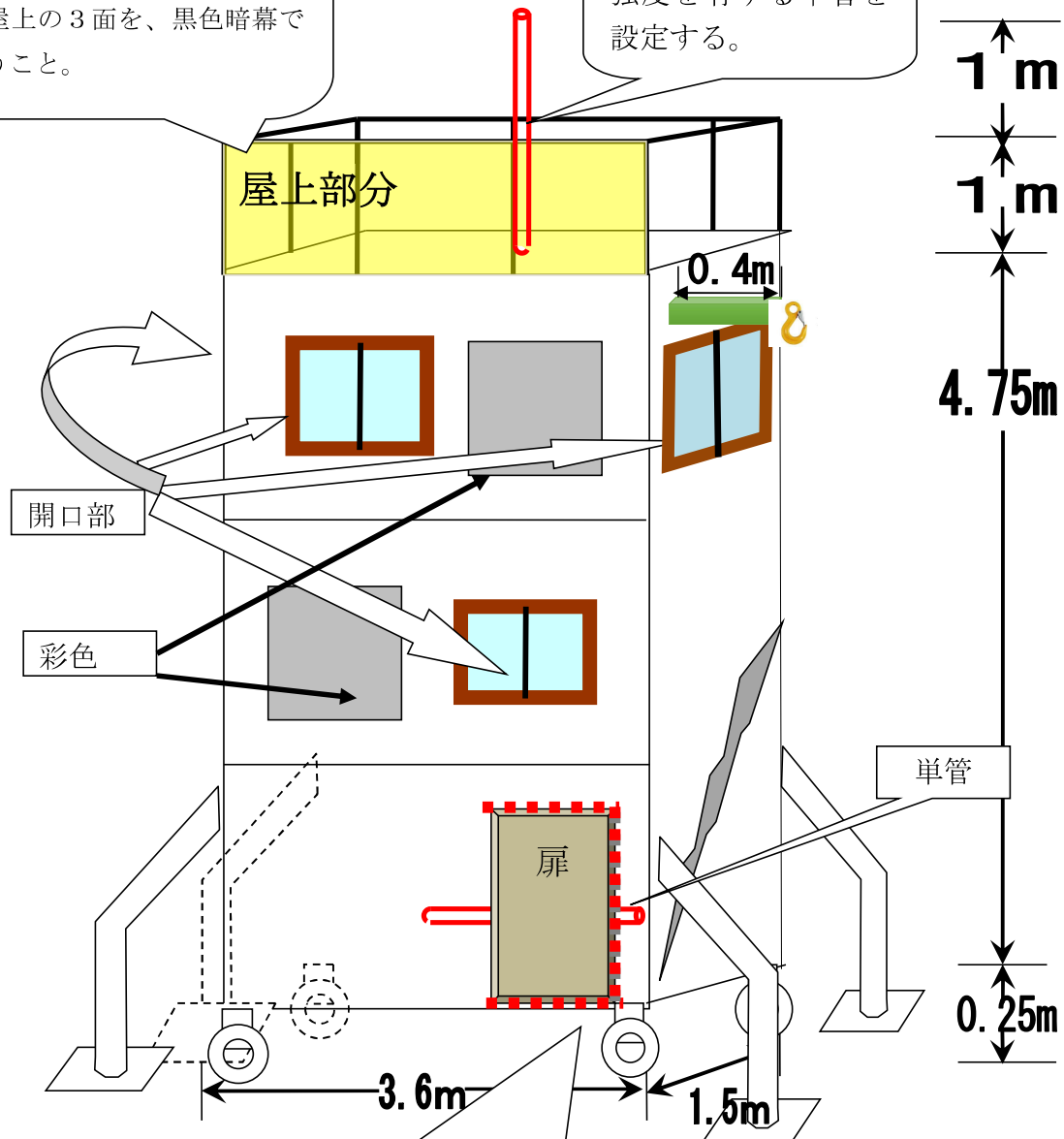


模擬造作物仕様書

- ①鉄単管を使用し、はしごを架けていても、十分な強度であること。
- ②屋上の3面を、黒色暗幕で覆うこと。

三連はしごを支える強度を有する単管を設定する。



切断用の単管 1 本をクランプで取り付ける。

※切断時大量の火花が出るように、肉厚の単管（厚さ 2.4 mm 以上とする）。

扉については、外壁をコンパネとする場合はくり抜き立てかけておくこと。外壁を幕とする場合は赤点線部分 3 辺に切れ目を入れ、マジックテープなどで開閉可能な状態としておくこと。

- 1 骨組みは鉄製（アルミ製可能）とし、アウトリガー（キャスター、ジャッキ付）を施し転倒防止の処置を図る。
- 2 建物内部は、訓練隊員及び要員等が屋上部分まで進入するため昇降可能な状態にする。（背面に簡易はしご設定等）
- 3 外壁はコンパネまたは幕により三面（背面以外）を覆う。
- 4 背面は、要救助者が隠れられるように暗幕等で覆う。
- 5 外壁は、窓ガラスや亀裂をイメージしたペイントを施す。
- 6 建物内部の2、3階及び屋上部分には、床面を作成する。
- 7 屋上部分は、5名が同時に乗ることのできる強度を有すること。
- 8 最上部分には、単管を使用し転落防止柵を設け、当該鉄柵はアンカーの作成が可能な強度（140kg以上・静荷重時）を有するものとする。
- 9 3階に設置したフック部については、チェーンスリング100用（アイタイプ）スリングフック(YH-10)若しくは同等品以上のものを用い、フックに75kg以上の静荷重時に耐えうる強度を有するものとする。また、フックへ荷重が掛かった際に、建物が転倒しない処置を講じること。

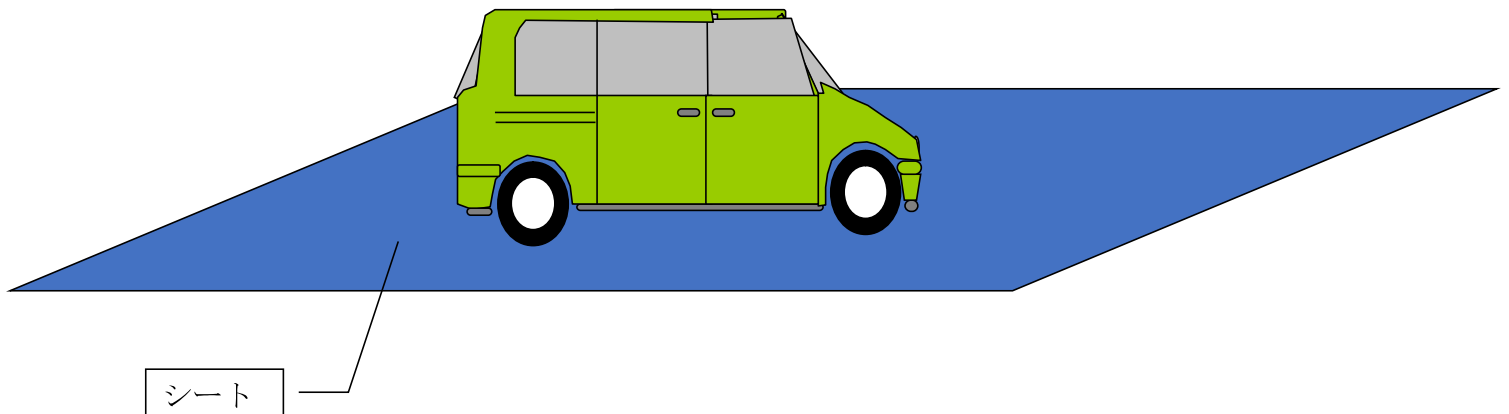
模擬倒壊建物

- 1 模擬倒壊建物は Rescue Training Module®（2 t）又は同等の機能を有する設備 1 器もしくは下記表以下の仕様の設備（①及び②の計 2 器）とする。
- 2 模擬倒壊建物の下にはシートを敷き、訓練による鉄くず等が道路上に飛散しないようにする。
なお、シートは、風等でめくれないように処置をすること。
- 3 Rescue Training Module®（2 t）又は同等の機能を有する設備とする場合は設備の 2 辺に外壁を模するベニヤ板で囲むこと。
- 4 Rescue Training Module®又は同等の機能を有する設備とする場合は本体及びスロープ部分をベニヤ板等で切断が可能で、切断すれば容易に屋内へ通じる状態とすること。
- 5 Rescue Training Module®又は同等の機能を有する設備とする場合は本体とスロープ部の間に間仕切りを模するベニヤ板を設置すること。
- 6 Rescue Training Module®又は同等の機能を有する設備以外とする場合は次の仕様の設備とすること。

①	②
正面	正面
天面	天面
背面	背面

- 7 模擬倒壊家屋は、倒壊建物と分かるようイメージや彩色等を施すこと。
- 8 模擬倒壊家屋は、屋根上で隊員4名が活動可能な強度及び構造とする。
- 9 模擬倒壊家屋を人力で持上げての移動が可能な強度（底部は単管補強等）を有するものとする。
- 10 屋根上には、活動隊員滑り止め用の横さんを設置するものとする。
- 11 屋根上の一部（1.1m×0.9m）を開放状態とし、その部分に単管及びベニヤ板を設置し、切断等可能な状態とする。
- 12 単管及びベニヤ板を取り除けば、屋内へ通じるようにする。
- 13 底部に移動時の持ち上げ用に10センチメートル程の間隙を設けるものとする。
- 14 背面には要救助者役の者が進入できる開口部（1.1m×1m）を1箇所設け、黒幕により目隠しを行うものとする。

模擬車両仕様書



模擬車両

- 1 普通乗用車（廃車）もしくは軽自動車（廃車）どちらか1台を準備する。
- 2 廃車は、訓練により破壊可能な車両とする。
- 3 廃車のオイル及びガソリン類は抜きとり、更にバッテリー、エアバック、を事前に取り外しておく。
- 4 車両の下にはシートを敷き、訓練による鉄くず等が道路上に飛散しないようにする。
なお、シートは、風等でめくれないように処置をすること。
- 5 訓練終了後、使用した車両は会場から撤去し、本市が定める場所（市内）に運搬すること。